下顎骨欠損に対して、インプラントを応用した無歯顎義歯の作製

○荒田 浩幸
兵庫県歯科技工士会

悪性腫瘍等による顎骨欠損症例では、咀嚼・嚥下・機音等の機能の回復及び審美性の改善を図るため、その症例に対応した顎義歯の装着が必須となるが、一般的な義歯と比較し、その口腔内の状態から顎義歯の維持を求めることが困難とされる。

今回、下顎の顎骨欠損に対してインプラント支台のオーバーデンチャーを装着した症例を経験したので報告する。

患者は77歳、女性、2011年3月から、多発性白斑症と診断され、加療中であったが、2014年1月、右下顎歯肉癌を認め、右下顎歯肉癌切除術及び、右下顎骨辺縁切除術が施行された。また2015年10月に唯一の残存歯であった左下第二小臼歯部に上皮内癌を認め、抜歯及び左下顎骨辺縁切除術が施行され、通常の義歯では維持を得る事が困難となったため、創部治癒後に下顎右側側切歯部、下顎左側犬歯部相当部に、1本ずつ計2本のインプラント埋入手術を施行した。その後、ロケーターアバットメントを使用した金部床義歯型のインプラントオーバーデンチャーを作製し、装着した。

今回のような義歯の維持安定を得ることが困難な症例では、インプラントを維持装置とした顎義歯を作製することにより、義歯の維持安定を獲得する事ができ、審美的、機能的にも充分に患者のQOLの向上に有用であった。

今後、長期的な経過観察や多くの症例を経験し、顎骨欠損患者へのインプラントを使用した顎義歯補綴に関して、さらなる有用性や適応の拡大を検討することが今後の課題であると思われる。